



地 理

問題は、次のページから書かれていて、Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの3題ある。

解答は、問題ごとに与えられた指示にしたがって、答案紙の所定の解答欄に書き入れよ。

地理 問題 I

次の文章を読み、下の問1～3に答えなさい。

地図には、それぞれの時代の人々の世界観が反映されてきた。たとえば、(A)の世界地図には緯線と経線とが入っており、そこから古代の人々の世界観をうかがい知ることができる。また、ヨーロッパの中世の絵地図(B)では、中心にエルサレムが位置しており、キリスト教の世界観が反映されていることがわかる。大航海時代には人々の世界観が大きく広がっていき、16世紀には、(C)が考案した地図が登場した。この地図は航海に適しているとされ、(C)図法の地図上で2地点間を結ぶ直線は(D)航路とよばれる。

現代ではリモートセンシングが幅広く活用されている。身近な例に、人工衛星「ひまわり」^(a)を使った天気予報がある。地球を観測する人工衛星には、エルニーニョ現象^(b)の監視に役立っているものもある。日常生活では、人工衛星から送られる信号を使って地球上の位置を正確に知るしくみ^(d)がよく使われており、このしくみは地図測量にも応用されている。こうした測量に基づいてつくられた地図は、GIS(地理情報システム)を用いた地理的な分析のための基盤となっている。GISは、たとえばヒートアイランド現象^(e)の分析など、さまざまな場面で活用されている。

問1 空欄(A)～(D)について、下の(1)～(4)に答えなさい。

- (1) 空欄(A)には古代の学者の名が入る。その名を答えなさい。
- (2) 空欄(B)に該当する地図の名を答えなさい。
- (3) 空欄(C)に該当する名を答えなさい。また、(C)図法の短所を答えなさい。
- (4) 空欄(D)に該当する航路の名を答えなさい。また、大圏航路とは何か、これと(D)航路との違いがわかるように、図を描いて答えなさい。図は、南半球の任意の2地点間を結ぶ航路の場合を例として描くこと。

問 2 下線部(a)~(d)について、下の(1)~(4)に答えなさい。

- (1) 下線部(a)について、リモートセンシングとはどのような技術か、答えなさい。
- (2) 下線部(b)について、「ひまわり」には、画像の撮影の点で、天気予報に有効な長所がある。その長所を答えなさい。
- (3) 下線部(c)について、エルニーニョ現象とはどのような現象か、答えなさい。また、この現象が発生した際、東南アジアの一部地域では気象に関連してどのようなことが起こる傾向があるか、答えなさい。
- (4) 下線部(d)について、このしくみを何というか、アルファベット4文字で答えなさい。また、このしくみのうち、アメリカ合衆国のものをとくに何というか、アルファベットで答えなさい。

問 3 下線部(e)について、下の(1)~(2)に答えなさい。

- (1) ヒートアイランド現象とはどのような現象か、答えなさい。
- (2) 都市化によって、なぜヒートアイランド現象が起こると考えられているか。その要因を答えなさい。

地理 問題Ⅱ

いくつかの国の年間一人当たりの食料消費量を示した表1を見て、各国の農業、食文化そして自然環境に関する下の問1～5に答えなさい。

この部分につきましては、
著作権の関係により公開いたしません。

問1 表1のA～Eに該当する食料は、乳製品、肉類、水産物、イモ類、穀物のうちどれかを答えなさい。

問2 表1において大規模な農牧場で多数の労働者を雇用して行われている農業形態が見られる国の記号を選び、その大土地所有制の名称を答えなさい。

問 3 表 1 で示した国の穀物, 肉類, イモ類の一人当たりの年間食料消費量のそれぞれの内訳を比率で示した次の図 1 を見て, 下の(1)~(4)に答えなさい。

この部分につきましては、
著作権の関係により公開いたしません。

- (1) 図1のA～Fの国を表1のa～jから選び、記号で答えなさい。
- (2) 中国における年間一人当たりの穀物消費の比率は、水田で栽培される米が50%、畑で栽培される小麦、トウモロコシ、雑穀の合計が50%となっている。中国は稲作を中心とする地域と畑作を中心とする地域に大きく二分される。地図に稲作地域と畑作地域のおおよその境界線を描き、描いた線のどちら側が「稲作地域」となるのかを記しなさい。
- (3) モンゴルでは食べ物を、肉類の「赤い食べ物」、乳製品の「白い食べ物」の2つに区分する。モンゴルにおける年間一人当たりの肉類消費の比率を見ると、牛肉とヒツジ・ヤギ肉で95%を占め、豚肉と鶏肉はほとんど食べない。なぜ、このような肉類消費になるのか、その理由を「赤い食べ物」と「白い食べ物」の視点から考えて説明しなさい。
- (4) 2013年のFAOの統計によると、世界の主穀生産量は、米が7.38億トン、小麦が7.11億トン、トウモロコシが10.17億トンである。トウモロコシは、主穀の中で最も生産量が多いにもかかわらず、Aの国を除き、食料として消費される割合が低い。多くのトウモロコシは食料以外に使われているが、その用途を3つ答えなさい。また、表1には、トウモロコシ世界第1位と第2位の生産国が含まれている。それぞれの国を選び、記号で答えなさい。

問 4 アメリカ合衆国の穀物生産について、下の(1)~(3)に答えなさい。

- (1) 次の図 2 は中西部の農地を撮影した衛星画像である。この衛星画像に示された灌漑方式の名称を答えなさい。

この部分につきましては、
著作権の関係により公開いたしません。

- (2) この地域の灌漑の水源となっている帯水層の名称を答えなさい。

- (3) この地域の灌漑が抱える環境問題を簡潔に説明しなさい。

問 5 ある国の海岸線を示している次の図 3 を見て、下の(1)~(3)に答えなさい。

この部分につきましては、
著作権の関係により公開いたしません。

濃い色の部分が陸を示す。

図 3

- (1) 図 3 の X と Y の国を表 1 の a ~ j から選び、記号で答えなさい。
- (2) 図 3 の X の破線内の地形の名称を答え、「土砂供給」の語句を用いて、その地形がどのように発達したのか、簡潔に説明しなさい。
- (3) 図 3 の Y の海岸地形の名称を答え、「氷河」の語句を用いて、その地形がどのように発達したのか、簡潔に説明しなさい。

地理 問題Ⅲ

次の図1を見て、オーストラリアに関する下の問い(問1～6)に答えなさい。

この部分につきましては、
著作権の関係により公開いたしません。

注：L～Nの分布は、堤純ほか(2014)による。

図1

問 1 次の図 2 中のア～オは、前ページの図 1 中における都市 A～E のいずれかのハイサーグラフである。ア～オのハイサーグラフはそれぞれどの都市に該当するか、記号で答えなさい。

この部分につきましては、
著作権の関係により公開いたしません。

注：気象庁の資料により作成。

図 2

問 2 図 1 中の L～N は、日本のオーストラリアからの輸入金額上位 3 品目(2018 年)を占める鉱物・エネルギー資源の主な産地を示している。これらの産地はどのようなところに分布しているか、L～N の資源名を明らかにしつつ、大地形との関連に触れながら述べなさい。

問 3 図 1 中の P～R は、ユネスコの世界遺産に指定された世界的な観光地である。これらを説明した次の文章*中の(カ)～(サ)に適語を入れなさい。

*ユネスコ世界遺産のホームページによる。原文は英文，一部改変。

この部分につきましては、
著作権の関係により公開いたしません。

問 4 次の図 3 は、オーストラリアにおける都市(人口 1 万人以上)の人口規模別分布を示したものである。これらの都市の分布にはどのような特徴が見られるか、地形や気候、開拓の歴史に触れながら説明しなさい。

この部分につきましては、
著作権の関係により公開いたしません。

注：オーストラリア統計局の資料により作成。

図 3

問 5 図 3 中の都市 X の主な機能と歴史的な成り立ちを、この都市と似たような性格をもつ都市を他の国から 2 つあげながら説明しなさい。

問 6 次の表1は、いくつかの年次におけるオーストラリアの総人口のうち外国生まれ人口の割合を、出身国・地域上位6つについて示したものである。出身国・地域の構成に見られる変化を、オーストラリアの移民政策に触れながら説明しなさい。

表1

この部分につきましては、
著作権の関係により公開いたしません。

注：1981年のドイツの数値は東ドイツ・西ドイツを含む。

2016年の中国の数値は香港・マカオ・台湾を含まない。

オーストラリア議会の資料により作成。